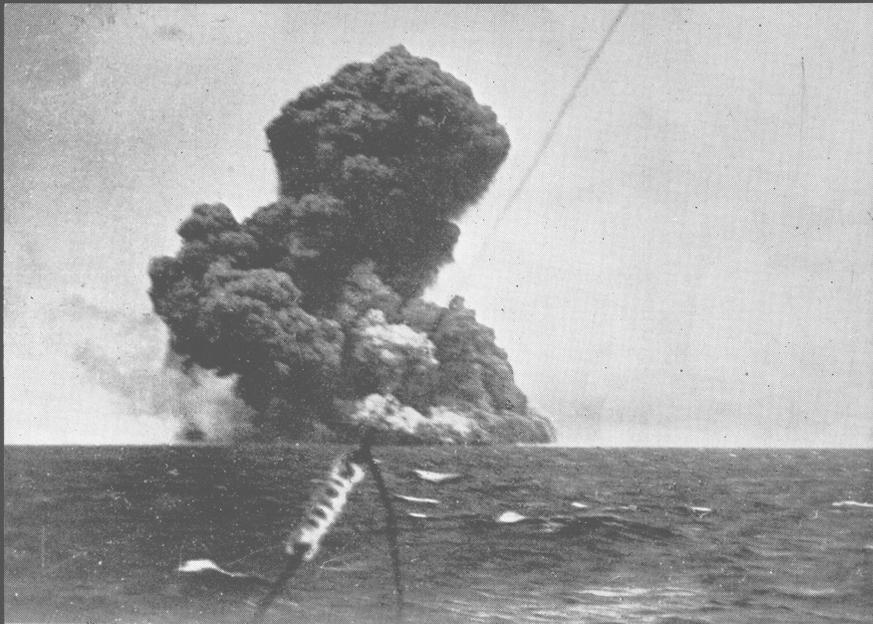


明神礁

ベヨネーズは列岩は八丈島と鳥島との丁度真中辺に位する火山礁で、付近にはときどき海底火山活動の起る場所である。すなわちある時にはおびただしい噴出物で海水が黄変されたり、火山島が出没したり、またときにはものすごい海中爆発が起って水柱を空高く噴きあげたりする。

1952年9月17日、同列岩の東北東約10kmの地点(31.°9N, 140.°0E)に海底噴火が起り、火山島が誕生しているのを漁船第11明神丸が発見した。この火山島は同船名にちなんで明神礁と名づけられた。当時新島の大きさは径百



数十m、高さ数十mであったが、しばしば起る大爆発のため数日後には島は吹きとばされてしまった。その後明神礁は翌年9月まで活動を繰返し、噴煙・噴気・爆発音や火山島の出没などが航空機、船舶、青ヶ島からしばしば認められた。

写真は1952年9月21日17時34分の爆発で、爆発後2分を経過した時の噴煙活動である。数秒置きに火柱があがり、黒色噴煙はむくむくと高さを増し、火柱があがるのと交互に黒煙の中で雷が無気味に光った。17時38分には噴煙は高さ5000m以上、海面での直径約740mにも達した。(写真は気象台観測船竹生丸から三浦三郎氏撮影、本船の位置は噴火現場から南東方約5000m)。当時の明神礁は最も激しい活動をしていた時期で、この写真を撮った日から3日後の9月24日には、現地調査を行う筈であった水路部観測船第5海洋丸が爆発にあって遭難し、調査団員9名、船員22名の総員31名が船と共に殉職した。

1900年以後のベヨネーズ列岩付近に於ける海底火山活動をあげると、1903年4月、1915年2月~7月、1934年5月、1946年2月~12月、1952年9月~1953年9月、1954年11月などがある。

(田中康裕記)

— < 目 次 > —

表紙写真 昭和新山	石川俊夫	
口 絵 明神礁	三浦三郎	
地方だより 女満別地磁気観測所	(写真)長嶺 亘(文)内川 規一	
<hr/>		
報 文	噴火の前兆	水上 武 1
	日本の火山とその研究	諏訪 彰 6
	起伏地形における圍面の防風	山本 良三 21
	国際地球観測年のねらい	北岡 龍海 24
	米子と大火	遠藤 二郎 26
<hr/>		
解 説	昭和新山	石川俊夫 12
	浅間山	田中康裕 14
	阿蘇山	本多 彪 16
	三原山	本多 彪 19
	櫻島	種子田定勝 20
	明神礁	田中義明 表紙裏
<hr/>		
書評	日本の水害 雪氷の研究	27
<hr/>		
訂正	1月号口絵札幌気象台の撮影者	鶴田 昶